

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	練馬区立開進第四小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	3	3	0	17	23
児童数	100	95	96	77	95	83	0	546	

研究の概要

1. 研究主題

<p>基礎・基本の確実な定着を図る指導のあり方 ～個に応じた指導の工夫～</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年</p> <p>国語～国語力は生きる力の基礎となる。すべての学習の基礎であるコミュニケーション能力を高めることが、学力を総合的に高めることにつながると考えたため。</p> <p>算数～児童の学習意欲は学力の向上に必須のものである。算数は習熟度に差が出やすいので、ここでのつまずきが他教科への学習意欲にも反映しやすいと考えたため</p> <p>体育～身体の健康の保持増進は、生きる力の基盤となる。</p> <p>道徳～児童の社会性の低下は、教科学習における学力の低下よりも顕著であるため。また、学力向上を図るためには、児童の道徳性を高めることも必要だと考えたため。</p>

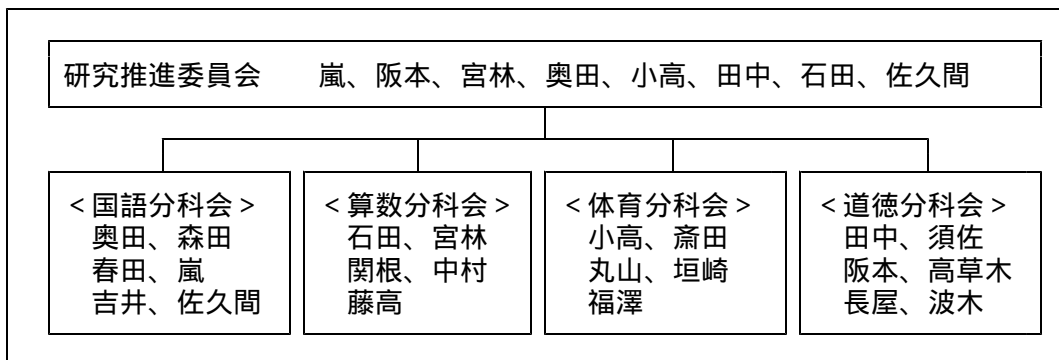
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る指導のあり方</p> <p>研究の見通し 研究テーマ、研究内容の検討・決定。研究授業の実施。</p> <p>研究の内容・方法 国語...発信力を高める指導 算数...計算力を高める少人数・習熟度学習 体育...児童の動きを高める評価 道徳...道徳的判断力を高める指導 ・授業研究の実施（各分科会1回ずつ計4回、その他自主研の実施） ・児童の学習や生活についての意識調査、実態調査の実施 ・算数の計算力調査 ・国語の学力調査 ・道徳的判断力調査 ・講演会の実施（2回） ・先進校の視察</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る指導のあり方 ～個に応じた指導の工夫～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容の再検討 ・研究授業を全学級実施し、成果を蓄積 ・2回の公開授業等を通じた成果の普及、保護者の啓発 <p>研究の内容・方法</p> <p>国語...伝え合う力を定着させる個に応じた指導 算数...数学的な考え方を育てる指導体制の工夫 体育...指導と評価の一体化を図る教師の言葉かけ 道徳...道徳的判断力・実践力を高める教材づくり、指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施（全学級1回ずつ、17回実施） ・基礎の時間のカリキュラム作成、教材作成 ・児童の学習や生活についての意識調査の実施、分析 ・体力調査の実施 ・研究発表会への参加 （練馬区立開進第三小、練馬区立石神井東小、練馬区立向山小、 北区立滝野川小、板橋区立紅梅小、新潟大学附属新潟小 等） ・公開授業の実施 ・フロンティアニュースの発行による保護者の啓発
----------------	--

平成 16 年度 (予定)	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る指導のあり方 ～個に応じた指導の工夫～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究組織の再構成と研究内容の再検討 ・研究分科会による研究成果の整理 ・授業研究による成果の検証 ・研究発表会による研究の公開、普及 <p>研究の内容・方法</p> <p>教材開発...教材の開発推進、教材の整理・活用 評価...教師による評価、児童による自己評価・相互評価 指導体制...算数における少人数、他教科におけるTT、保護者ボランティア活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 ・基礎の時間カリキュラムの充実 ・児童の学習や生活についての意識調査の実施、分析、公開 ・フロンティアニュースの発行による保護者の啓発 ・研究発表会の実施
------------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<国語>

基礎の時間のカリキュラムと教材の作成を進め、全校で実施することができた。

- ・話す力を高める発音発声指導 年間10回
- ・書く力を高める視写活動 年間20回

5回の授業研究を通して、多様な内容に取り組み、児童の話す力・聞く力を高めることができた。

- ・評価と指導の一体化を進めるために、評価規準、評価方法、評価後の指導の手だてを具体的に準備
- ・TTによる指導
- ・保護者ボランティアを生かした学習
- ・カードを生かした自己評価活動

<算数>

基礎の時間のカリキュラムを作成し、全校で実施することができた。

- ・反復練習による計算力の定着
- 4回の授業研究を通して、指導体制の工夫を図り、児童の考える力を高めた。
- ・低学年におけるTTによる指導の実施
 - ・中学年における均等少人数指導の実施
 - ・高学年における習熟度別指導、課題別指導の実施

<体育>

体力調査や意識調査を実施し、児童の実態を把握することができた。

- ・持続力、投げる力が弱い。
 - ・友達との教え合い活動を好む。めあての達成感を十分に味わってはいない。
- 4回の授業研究を通して、指導と評価の一体化を進めることができた。
- ・活動中に教師の評価を児童に返す言葉かけの重要性
 - ・学習カードを使った自己評価力の育成

<道徳>

4回の授業研究を通して、資料づくり、外部人材の導入も含めた指導体制の工夫を進めることができた。

- ・TTによる指導（資料提示時、グループごとの話し合い活動時、終末時）
- ・児童が本気になる教材の発掘
- ・複数資料を使った授業づくり
- ・エクササイズを取り入れた授業づくり

<意識調査>

児童の学習や生活についての意識調査の実施・分析をおこない、生活習慣と学習意欲の相関関係を明らかにすることができた。

2. 今後の課題

これまでの研究成果を整理し、活用していけるよう整備を進める。
研究成果を他教科・他学年へ取り入れ、さらに充実を図る。
外部人材の活用をさらに進めるための環境整備に着手する。
家庭との連携を一層深めるために具体的な取り組みを展開する。
研究成果の普及を図るために、研究発表会を実施する。

学力等把握のための学校としての取組

児童の意識調査

- ・目的～学習意欲と生活態度の相関関係を分析し、今後の授業改善に生かす。
- ・時期～一学期に実施
- ・内容～各教科の学習親和度、学習への自信。生活習慣20項目

体力調査

- ・目的～児童の体力の実態を把握し、授業づくりに資する。
継続的に実施し、結果を残すことで、児童の自己評価力を高める。
- ・時期～一学期
- ・内容～スポーツテスト

話す・聞く活動に対する意識調査

- ・目的～児童の音声言語活動に対する意識を把握し、授業づくりに役立てる。
- ・時期～二学期
- ・内容～アンケート調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業

- ・日時 第1回 平成15年10月14日
第2回 平成16年1月21日
- ・目的 研究授業および協議会の公開を通して、研究を深めるとともに、研究の経過と成果を区内へ広めていく。
- ・場所 本校
- ・対象 練馬区内教員(11名参加)、保護者

フロンティアニュースの発行

- ・目的 保護者に研究経過を知らせることにより、学校教育に対する理解と信頼を高める。
- ・対象 本校保護者
- ・発行日 随時発行(年間10号程度を予定)

研究紀要の作成

研究発表会(予定)

- ・日時 平成17年1月28日(金)

H P作成(予定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無